

【「教育支援プランA・B」様式と記入のポイント】

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな		性別	生年月日	取扱注意
本人氏名			平成○年○月○日	
ふりがな		住所	市 町1-2-3	
保護者氏名		TEL	○ - -	
対象期間	平成 年 月 日（学部 年）から平成 年 月 日（学部 年）まで3年間			
作成年度	学校名	校長名	学部・学年・組	記入者名
1 令和 年度	学校		学部・年・組	
2				
3				
特別な教育的 ニーズ	<p>(対象幼児児童生徒は現在)</p> <p>…… (…という状況である。…という点で困っている。)</p> <p>従って(発達段階や本人の特性・保護者の願いを踏まえ、中長期的な視点から)</p> <p>… などの支援が必要である。</p> <p>支援に当たっては(置かれている環境、本人の特性・得意分野などを考慮し)</p> <p>… などの配慮が必要である。</p> <p>【記入上の観点】</p> <p>児童生徒の現在の状況や、本人・保護者の願いを踏まえ、長期的(3年程度)な視点から支援内容、配慮事項を記入する。</p> <p>「将来どのような力を身に付けることが必要か」という見通しの下、そのために「現在どのような力を育てるのか」という観点で教育的ニーズを考える。</p>			
(追加)	教育的ニーズを見直した際には随時記入する。その際、記入年月日を入れる。			
本人・保護者の 願い	今伸ばしたい力 長期的(3年程度)な目標 興味・関心のある事柄 得意なこと 苦手なこと 必要な配慮についての意思の表明 等			
合理的配慮の 実施内容	合意の形成に基づいて実施する合理的配慮の内容を記入する。 発達段階を考慮しつつ、本人・保護者との合意形成を図った上で明記する。			
(追加)	合理的配慮が必要なくなった、又は内容に変更が生じたときは、(追加)欄に記入する。			
教育機関の 支援		目標・機関名	支援内容	評価
	所属校	特別支援学校 …… …… …… (3年間を見据えた目標) 所属校での目標を記入する。	…… …… …… (支援内容・配慮事項) 所属校において、目標達成のためにどのような支援を行うかを具体的に記入する。	個々の支援内容についての評価を踏まえ、特徴的な事柄を記入する。 1、2年目に達成した場合、目標を見直す場合、引き継ぎで必要な場合には、その時点で記入する(記入年月日を入れる)。
(追加)	目標の見直しを行った時に随時記入する(記入年月日を入れる)。			

	就学支援委員会の助言内容 (追加)	市就学支援委員会	支援機関・支援内容等に対する助言などを記入する。
	支援籍、交流及び共同学習 (追加)	市立 学校で 支援籍学習	……、……(支援内容) 学期(月・週) 回、「」の 学習に参加。
関係機関の支援		機 関 名	支 援 内 容
	医療・保健 (追加)	病院(主治医等) 保健所 保健センターなど	現在の通院の状況、発作等への薬物治療の状況、身体障害への治療内容などを記入する。
	福祉・労働 (追加)	児童相談所 福祉事務所 生活支援センター 就労支援センター 企業、作業所など	各機関からどのような支援を受けるか 今後(卒業後に向けて)どのような支援が必要か 産業現場等における実習の状況と今後の課題 個別移行支援計画としての内容は、補助シートで補う
	家庭・地域 (追加)	学童保育 子供会 放課後活動 ボランティア 習い事など	放課後や週末、地域の学童保育などで支援を受ける ボランティアの支援を受ける 家庭での生活や配慮事項 余暇の過ごし方
本人のプロフィール	障害の状況	障害名 手帳の種類(取得年月日) 発作・服薬の有無・状況・配慮点 障害の程度・状況等 障害から派生する生活上・行動上の配慮事項	
	これまでの支援内容	生育歴 療育歴 教育歴	出産時の様子 子育てで気になった点(運動、言語、対人関係等) 乳幼児検診 治療・訓練の経過 保育所・幼稚園への通園状況 学校への通学状況
		相談歴 諸検査	保健センター親子相談 発達相談 教育委員会・就学相談 知能検査、社会生活能力検査の実施結果
		その他	

【「本人のプロフィール」欄の記入上の留意点】

必要に応じて記入します。

障害名は、診断されている場合のみ、病院名を併せて記入します。

保護者が望まない情報に関しては記入しません。

保護者との面談の上、記入します。

中学校段階で初めて作成する場合には、参考となる特徴的なことのみ、可能な範囲で記入します。

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人氏名	学校名	学校	取扱注意
学部・学年・組	学部 年 組	記入者名	
指導方針	<p>教育支援プランAを受けて、年度当初の状況を踏まえ、具体的な指導目標と配慮事項を記入する。</p> <p>現在・・・という状況である（・・・ができるようになってきた、・・・に興味を持っている、・・・でつまずいている）ので、・・・</p> <p>配慮しながら（・・・という場を設定しながら）・・・できる（・・・の力を伸ばす、・・・が経験できる、・・・に自信がもてる、・・・への関心・意欲を育てる）ように指導する。</p> <p>児童生徒の示す行動の背景を考え、どのような力を付ける必要があるかを明記する。児童生徒の将来像を見据えて、現在必要な力は何かを考え、指導方針を立てる。できないことをできるようにするだけでなく、できないことの本質を考える。この方針が、各教科等の具体的な指導になるので、どのような児童生徒になってほしいか、または、どのような力の育成が必要かということを入力する。</p>		
（追加）			
指導に結びつく実態			
1 健康の保持 （日常生活面、健康面など） （追加）	身辺の自立、食事、排泄、睡眠、生活リズム 体調管理、服薬、発作 など		
2 心理的な安定 （情緒面、状況の理解など） （追加）	気持ちが不安定になるときの状況、調整の仕方 自己理解、自己肯定感 変化に対応する力 活動への意欲（満足感、達成感、充実感、自信）など		
3 人間関係の形成 （人とのかかわり、集団への参加など） （追加）	教師や友人とのかかわり方 自己理解の状況（得意なこと、不得意なことの理解） 学級集団、学年集団等、集団への参加状況 など		
4 環境の把握 （感覚の活用、認知面、学習面など） （追加）	感覚の過敏さ 情報の入力の仕方 認知の特性（聴覚優位、視覚優位、運動性優位など） 教科等の学習の様子（得意な教科、苦手な教科） 学習の状況、理解 など		
5 身体の動き （運動・動作、作業面など） （追加）	姿勢の保持（立位姿勢、いす座位姿勢など） 基本動作（歩く、走る、跳ぶ、止まる） 体育的な運動（ボール投げ、縄跳び、鉄棒、マット運動など） 手指の巧緻性や操作性 協応動作 身体の動きのコントロール 補助用具の活用（車いす、歩行器、食器、机等） など		

6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)		意思や要求の伝達手段 言葉の理解、言葉の使い方 相手や場に応じたコミュニケーション 教師や友人等とのコミュニケーションの様子 など	
(追加)			
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)		「1」～「6」に記入したこと以外で指導に結び付く児童生徒の様子 児童生徒の特徴的な行動、言動 など	
(追加)			
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法(手立て)	評価
自立活動	<1学期>		
<p>「学習課題・目標」欄については、 課題に基づいた具体的な目標を能動的な表現で記入する。 児童生徒の示す行動等の背景(なぜそのような行動を起こすのか)を考え、学習課題、目標を立てる。</p>			<p>「評価」欄については、 指導場面での特徴的な様子、成長した点、今後の課題や目標等を具体的・客観的に記入する。 次の学期への具体的な目標や手立て等も記入する。</p>
日常生活の指導	<1学期>		
	<2学期>		
	<3学期>		
生活単元学習	<1学期>		
	<2学期>		
	<3学期>		
(教科・領域)	<1学期>		
	<2学期>		
	<3学期>		

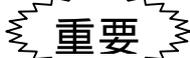
【「指導に結びつく実態」欄の記入上の留意点】

自立活動の六区分(27項目)を意識し、幼児児童生徒の全体像を踏まえた上で、指導に結び付く実態を記入します。

「ここまではできる」という現状を明確にします。

記入については、P67 表中の内容及び「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」を参考にする。興味・関心等、指導に結び付く情報も記入します。

「～ができないこと」等のマイナス面のみを記入するのではなく、「すればできる」「ここまではできる」という観点で記入します。



教育支援プランA・Bには重要な個人情報に記載されているので、管理には十分な配慮が必要です。保存期間は教育支援プランA・B共に卒業後5年間です。関係機関との連携が重要になります。連携に当たっては、相互に情報管理の徹底を図る必要があります。